

ジンバブエ

ジンバブエ共和国

人口：約1,509万人 ※1

首都：ハラレ

一人当たりGNI：1,400米ドル※1

基礎的な衛生習慣設備がある家庭の割合：

42% ※2

初等教育終了率：92% ※2

前期中等教育終了率：49% ※2

後期中等教育終了率：15% ※2

※1 外務省HP ※2 世界子供白書2021UNICEFより



「ADRA の活動を通して、いかに教育が大切かを理解しました」

村人たちの声より

命を守るための水衛生事業



1980年に英国から独立したジンバブエ共和国は、37年にわたってロバート・ムガベ政権が続きました。同国は人口の99パーセント以上が黒人で植民地支配を受けていた人々の末裔です。ムガベが国民のために取り組んだ保健制度や教育制度は、評価されました。義務教育は6歳からの7年間で、純就学率は85.9パーセント。国民は学問の重要性を感じながら生きています。一方で、土地改革により経済が破綻し、汚職を指摘される政府でもありました。

ジンバブエでは、2008年8月中旬にコレラ患者が確認されました。以後、瞬く間に感染が拡大し、およそ1年で同国の90%を超える地域を覆いつくしました。コレラという感染症は、治療を行わなければ死亡率が70%から80%となります。流行を食い止めるべく、ADRA Japanは、水衛生に着手しました。深井戸やトイレ、手洗い場の設置、水浄化薬品、殺菌剤、石鹼の配付に取り組みました。

全ての子どもに教育の機会を



2017年からは、地域の住民の方と共に、教育支援に取り組んでいます。ジンバブエには、国内の人口爆発とともに各地で開設されたサテライトスクールが多くあります。これらは、政府に正規登録されていない仮設の学校で、風雨や野生動物の接近から子どもたちを守る校舎もないため、休校が続いてしまうことも少なくありません。生徒の出席率は下がり、家計を助けるために労働力となって学校を退学したり、早婚で学業を捨ててしまうケースも目立ちます。授業数が減り、年間の教育課程の半分しかこなせない事態が生じ、都市部と

の教育格差は広がる一方となっています。

このような状況を打破するため、ADRAは「一人の子どもも取り残さない」というスローガンを掲げ、住民の方々とも話し合いを重ねて、校舎や教員宿舎の建設を進めてきました。また、備品の購入や修繕などの学校維持費を自分たちで創出していけるよう、学校開発委員会が自ら取り組む収入向上活動をサポートしています。地域への教育啓発の機会を作りながら、既に中退してしまった人々向けの学び直しのクラスも設け、学業の再開を支えています。

十分な教育環境が整うと、子どもたちは友人や先生との会話の中で、コミュニケーション能力など子どもの時期に身につけるべきスキルを育てることができます。また、読み書き・計算などの初等教育段階の学力を身につけることで、将来安定した収入活動を行うことができるようになります。

子どもたちが学校や教育の意義を感じられれば、将来彼らが親になった時に、自身の子を学校に通わせるようになるでしょう。このことは、慢性的な貧困状態を断ち切ることに繋がります。これらの例は、ほんの一部にすぎません。私たちが目指すのは、全ての子どもたちが自立した生活を送るための基盤となる教育環境です。

そのためには物資や資金を提供するだけでなく、現地の方とコミュニケーションを取り、時間をかけて地域に根差した活動を続けることが大切です。子どもたちの10年、20年先の未来を支えるために、今後も真摯に取り組んでまいります。